

## 第16回ペスタロッチー教育賞 表彰式主催者挨拶

広島大学長 浅原利正

ペスタロッチー教育賞表彰式にあたり、実行委員長といたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

本賞は、平成4年に創設され、今年で16回目を迎えます。今回も全国から多くの個人、団体を御推薦いただきましたが、その中から、特にペスタロッチーの精神を現代に体现した活動をなさっておられる方として、しいのみ学園園長・鼻地三郎（しょうち・さぶろう）氏の受賞が決定いたしました。

本日ここに、鼻地氏をお迎えし、第16回の表彰式を開催できますことは、まことに有り難く、心よりお礼申し上げます。

鼻地氏は、明治39年北海道のお生まれで、現在、101歳になられます。実は、鼻地氏はこの西条の地で御幼少の頃を過ごされています。株式会社サタケの創設者、佐竹利市氏が御親戚ということもあって鼻地氏のお父様がこちらで働かれることになり、御家族で引っ越していらっしゃいました。小学校は、近くの寺西小学校に通われています。氏は、広島大学の前身である、広島師範学校、広島高等師範学校、広島文理科大学を卒業されており、私どもの大先輩ということになります。福岡教育大学を定年退官された後も現役の研究者として、また実践家として障害児教育の進歩に寄与されています。

今回のペスタロッチー教育賞は、障害児教育実践に対する鼻地氏の長年にわたる御功績に対して贈呈されるものです。

氏は、障害児の療育に関わる医学と心理学の御研究で、2つの博士の学位を修得されました。さらに外国の大学から哲学と教育学の学位も授与されています。そうした氏の学究への情熱は、御自身のお子様を救いたいとお気持ちから発せられていました。氏には3人のお子様がいりますが、お2人が小児麻痺にかかってしまいました。当時は行き場のなかった、そうした子どもたちが安心して学ぶことのできる施設、しいのみ学園を、私財を投じて創られたのでした。

氏は、その他にも、福岡教育大学在職中に、日本の障害児教育を方向づける様々なお仕事を成し遂げられました。退職後は韓国に大学院の長として招かれ、当地の障害児教育の普及に尽力されています。最近では、中国に特殊学級「しいのみクラス」を開設されました。また、親子が触れ合いながらおもちゃを手作りするという幼児教育メソッドを考案され、しいのみ学園におきまして「鼻地式手作りおもちゃ親子愛情教室」を開いていらっしゃいます。この教育方法の普及を兼ねて、この3年は毎年世界一周講演旅行にお出かけになっています。

氏の、たゆまず前進し続けるお姿は、分野や言語を超えて、多くのひとびとを励まし勇気づけています。

鼻地氏の活動は、ペスタロッチー自身の活動と重なります。ペスタロッチーは、戦争で

孤児となり、行き場を失った子どもを集めシュタンツの地に学校を開きました。52歳のときです。シュタンツ以降、彼は自らの実践を通して教育理論を開発していきます。昇地氏がしいのみ学園を創設されたのは42歳のときでした。行き場のない子どもたちのための学校、しいのみ学園。この学園が求める理論と実践を開発し、それを学園の子どもたちに返していく。そして、それは世界の障害児教育を変えていくことになる。氏はそうした実践を半世紀以上も続けていらっしやいました。昇地三郎氏のこの長年にわたる多大な功績に対し、ペスタロッチー教育賞を贈呈し、ここにあらためて高く顕彰したいと思います。

以上、簡単ではございますが、主催者、実行委員長の挨拶とさせていただきます。